



資料 1

# 第2回重症心身障害児者等 支援体制検討会

令和6年10月9日

福祉子どもみらい局福祉部  
障害サービス課

ともに生きる

翔子

ともに生きる社会  
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

# 前回検討会で共有された課題

分類	課題	課題に対する方向性・対応策（案）
人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人員（特に看護師）の確保と支援の質の確保が必要</li> <li>・ 看護職員を配置しても報酬で還元されず、経営が苦しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人職場となることを想定した看護師向け研修の開催</li> <li>・ 公立病院のOB/OGを人材バンク化して派遣する等の体制、人員確保の仕組み作り</li> <li>・ 看護職員配置に係る補助金の検討</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単独での事業展開は難しい</li> <li>・ 重心者や医ケア者を受入れる場合現在の制度の中では、経営が成り立つ仕組みになっていない</li> <li>・ 運営法人探し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重心の方が利用できる通所施設をバックアップし、次のステップとしてGHの運営を後押し</li> <li>・ 先行事例の実態調査・分析を行い、運営ガイドブックを作成し、運営予定法人の経営基盤の構築を後押し</li> <li>・ 現在生活介護等の通所施設を運営する事業所への打診</li> <li>・ 運営コンサルテーションの実施</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアの個別性が必要。生活の安心のためには、施設並みの医療体制が必要。</li> <li>・ 地域で生活するための資源とつながりの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭の中で1対1で行っていることに近い支援が行える人員体制の確保</li> <li>・ 緊急時の対応や医療機関との連携体制の確保</li> <li>・ 訪問看護ステーションと合わせた事業展開</li> </ul>
利用ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのようなニーズがあるか把握できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニーズ・意識調査を実施。施設がない中、どのようなグループホームが必要か検討</li> </ul>

# グループホームを作るにあたっての認識の確認

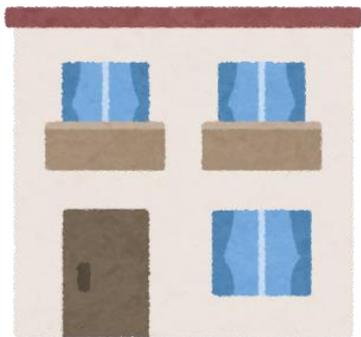
## ■ 湘南東部圏域における2つの課題（前回検討会より）

### 短期的取組

重心施設のない湘南東部圏域において、早急に住まいの場を必要とする方々が入居するためのグループホームなど



今必要な視点はこちらでしたね。



### 中長期的取組

どんな障害があっても、障害当事者が望む暮らしを実現するための住まいの場を考える上での選択肢の一つとしてグループホームなど



# 共有された課題について



- 前回検討会で議論できなかった課題は？
- 前回検討会で共有された以外の課題は？
  - 方向性や対応策の実現性は？
- 短期的に取り組むべきこと、中長期で取り組むべきことは？

前回深められなかった部分  
についてご意見ください。



# 必要とされるグループホームとは

- 重症心身障害者等を受入れるグループホームに必要な四本柱

①人材確保 ②運営 ③連携 ④利用ニーズ  
4つの柱をしっかりとした土台にするために考えるべきこと



グループホームに入居したいと考えている人は実際どの程度いる？  
現在のグループホームのイメージは？不安や心配なところは？  
入居したいと思えるグループホームはどのようなグループホーム？



対象者が求めるグループホームを把握するための『ニーズ・意識調査』の実施



# ニーズ・意識調査について

## ■ 調査項目（調査の視点によって必要な項目は異なる）

- ・ 対象者の状態像（年齢、A D L、呼吸状況、栄養状況、排泄、主な医療等）
- ・ 主な介護者と介護者の年齢や健康状態
- ・ グループホームの認知度  
（制度、職員配置、自己負担金、受けられるケア、医療連携 等）
- ・ 今後生活する場としてどこで生活したいか（そこで生活したい理由）
- ・ 現在のグループホームに不足していること、希望すること、どのようなグループホームであれば安心か 等）
- ・ 上記の機能を備えたグループホームであれば、生活したいと考えるか

他に必要な項目  
は？



# ニーズ・意識調査について

## ■ 調査対象者

調査の視点に応じた対象者

## ■ 調査実施者・方法

- ・ 児童も対象に含める場合、児童は児童相談所
- ・ 成人のみを対象とする場合は市町
- ・ どのように調査を実施するか

## ■ 調査期間

- ・ 調査票配布後～概ね 1～2 か月程度必要か

グループホームを作る目的  
に応じた対象者や調査方法  
は？



# 事業所視察について

## ■ 視察事業所候補

- ・グループホーム歩む会（横浜市）：看護職員配置なし。訪問看護師が24時間対応
- ・ハイムビオラ（藤沢市）：看護職員配置あり、医療的ケア対応支援体制あり
- ・SMILE HOME（小田原市）：看護職員配置あり、医療的ケア支援体制あり

## ■ 視察の視点

生活環境（食事・入浴・居室等）、医療体制（連携）、職員体制（看護師の配置等）、重症心身障害者や医療的ケアを必要とする方の定員に対する割合、利用者支援における課題、運営面での課題

視察報告書



# 今後のスケジュール (想定している流れ)

開催時期	検討内容
第1回 (7月1日)	<ul style="list-style-type: none"><li>重症心身障害者等を受入れるグループホームについて (論点整理)</li><li>グループホーム等利用ニーズの把握について</li></ul>
第2回 (10月9日)	<ul style="list-style-type: none"><li>前回検討会の課題共有と課題に対する方向性・対応策①</li></ul>
	(・対象者を受入れているグループホームの視察)
第3回 (12月上旬頃)	<ul style="list-style-type: none"><li>課題に対する方向性・対応策②</li></ul>
第4回 (1月下旬頃)	<ul style="list-style-type: none"><li>報告書案について</li><li>盛り込む内容についての項目たて等</li></ul>
第5回 (3月頃)	<ul style="list-style-type: none"><li>報告書まとめ</li></ul>

